

令和 2 年度

学校関係者評価

日 時： 令和 3 年 3 月 10 日 (水) 15:00~17:00

場 所： 大阪医療センター附属看護学校

参 加 者： 大学における教育の専門家
看護専修学校 副校長
就職先施設 看護部長 (Webにて)
卒業生
保護者

令和 2 年度 看護学校目標

大阪医療センター附属看護学校

1. 改訂カリキュラム作成

1) 教育課程の再編成

(1) 3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）の見直し

(2) 授業科目と単位数・評価の見直し

2) 臨地実習内容の再確認

(1) IPE（多職種連携教育）の実施にむけた調整

(2) 確保困難な看護学領域の実習場所の調整

2. カリキュラム改正にむけた資料収集体制の構築

1) 学校評価結果の分析

2) カリキュラム評価、卒業生像分析

3) 評価システムと活用体制の再構築

3. 看護教育の質の向上

1) 教員の教育実践力の向上

(1) 学生の思考力・アセスメント力を強化する授業展開と評価・改善

(2) 学生の到達度及び授業評価と結果の活用

2) 実習指導の充実にむけた臨床との連携強化

(1) 実習指導者と連携した実習前指導方法の活用と看護実践力の強化

(2) 実習指導者育成の支援（指導者会議・実習指導者研修）

3) 教員の専門領域のキャリアアップ

(1) 授業研究の実施

(2) 計画的な研究活動と学会発表

4. コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築

1) 教員間の業務調整によるタイムリーな学生支援体制

2) 良好なコミュニケーションと相互協力を通して教育観の醸成

5. 国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成

1) 効果的な学生募集活動

2) 国立病院機構への帰属意識の醸成

3) 国家試験合格率 100%維持にむけた学習支援

令和2年度 学校関係者評価 総括

令和2年度 看護学校目標と評価

目標	<p>【1. 改訂カリキュラム作成】</p> <p>1) 教育課程の再編成</p> <p>(1) 3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）の見直し (2) 授業科目と単位数・評価の見直し</p> <p>2) 臨地実習内容の再確認</p> <p>(1) IPE（多職種連携教育）の実施にむけた調整 (2) 確保困難な看護学領域の実習場所の調整</p>
評価	<p>1)-1)-(2)</p> <p>・毎月1回、各学年のカリキュラム検討メンバーと副校长・教育主事の計5名による会議を実施した。カリキュラム検討委員会で検討した内容を、各学年で検討し教員会議又は次回カリキュラム会議で検討する形で進行してきた。現在、97単位の授業科目を2022年度カリキュラムに対応する形で102単位の科目調整を行っている。令和3年6月末を期限に整理を終え、7月9日までに機構本部への提出、7月16日までの大阪府提出を目指す。（資料1：ディプロマポリシーを中心に整理したカリキュラムマップ、資料2：カリキュラム会議開催議事録一覧）</p> <p>2)-1)-(2)</p> <p>・今年から、母体施設である大阪医療センターで臨地実習を行っている薬剤師、理学療法士、作業療法士の各学生と看護学生による交流を兼ねた事例検討会を予定したいと考え、薬剤部長・リハビリテーション科長との調整を行ったが、コロナ感染症による実習変更等が各養成学校において発生し、実現できなかった。</p> <p>・改訂カリキュラムにおいては、多職種が担当する講義の時間内にその職種の専門性、役割、看護との協働性を講義内容として依頼するシラバスを作成中。また、今年度は、地域で暮らす発達障害のある小児の理解を目的に、コペル（児童発達療養スクール）の見学実習の調整を終えていたが、コロナ感染症により実施できなかった。次年度に継続する。</p> <p>・コロナ感染症の影響による、在宅看護論実習の実習日程及び実習場所の変更が生じたものの、日程変更と人数調整でほぼ計画通り実習することができた。講義時間割は、オンライン授業を取り入れることで計画通り実施できた。学校内にWi-Fi整備ができていないため、次年度以降の課題である。</p>

目標	【2. カリキュラム改正にむけた資料収集体制の構築】
2	1) 学校評価結果の分析 2) カリキュラム評価、卒業生像分析 3) 評価システムと活用体制の再構築
評価	1) 近畿グループ5校の相互評価を令和3年2月1日に受審し、「ほぼ満足」の評価結果を得た（資料3）この時に指摘された対面開催を中止した運営会議（6月）の議事録、認印の不備は、議事録を追記して残した。また、講義概要記載用紙の形式の変更（担当講師名の記載、対面授業 or オンラインの記載、等）を準備し次年度に向けて準備した。
2	2) 72回生（R3.3 卒業者）のカリキュラムに関する満足度調査において、「全体的に見て、本校で学んだことに満足している（大いにそう思う・そう思う）」学生の割合が94%と高く、科目関連評価も全項目80%以上が満足しているという回答だった。（資料4・5）学生にとって、充実したカリキュラムだったと評価する。ディプロマポリシーの到達については、学生の自己評価によると、到達したと評価している者が大半であり、理念の浸透に繋がっていると考える（資料6）。 3) 昨年度の学校関係者評価の経験から、学生によるカリキュラム評価の回答をもとに教務の業務改善を追加して取り組んできた。例えば、「教員は忙しそうで相談しにくい」という意見に対して、教員の勤務形態と勤務時間帯を併せて表示することで、適切なアポイントメントを活用する場面が増えたと感じる。また、実習室の練習人数を制限するための予約制やシミュレーターSENARIO 活用の予約制なども学生自身が時間管理できる方法として活用でたと感じる（資料7）。評価システムの活用として夏季休暇中に中間評価を実施し、書類等の整理を実施した。

目標	【3. 看護教育の質の向上】
3	1) 教員の教育実践力の向上 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の思考力・アセスメント力を強化する授業展開と評価・改善 (2) 学生の到達度及び授業評価と結果の活用 2) 実習指導の充実にむけた臨床との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> (1) 実習指導者と連携した実習前指導方法の活用と看護実践力の強化 (2) 実習指導者育成の支援（指導者会議・実習指導者研修） 3) 教員の専門領域のキャリアアップ <ul style="list-style-type: none"> (1) 授業研究の実施 (2) 計画的な研究活動と学会発表

評価 3	<p>1)-(1)(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの見直しによる、専門分野Ⅰ（基礎看護学）領域の技術習得は演習形式とし、講義形式を少なくした。また、生活援助技術の技術試験は今までのチェック形式の評価表を改め、ループリック評価とし、学生・教員ともに「観点」を中心とした学びを支援することができた（ループリック評価表 資料8）。 授業評価の結果。学生による授業評価は過去5年間の中では、最も全体的に高く、教員の授業に対しても満足度は高い（資料9）。講義をオンライン授業にしたことでも学生自身のペースでの学習ができたと考える。また、看護技術等は対面授業とし演習を実施したが、人数や方法には制約が多く、授業進行には多くの工夫と変更を必要としたことで教員の自己評価は低いものになったと考える。 <p>2)-(1)(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の実習指導者会は、会の目標を学生のレディネス把握、指導方法、評価、態度指導の4つをポイントに取り組んだ。コロナ感染症の影響で直接学生の演習に指導者が参加する形はとれなかったが、動画や代表者の説明などを活用して目標は達成できた（資料10）。 母体施設及びNHOの他施設の実習指導者を対象に実施している実習指導者研修（資料11）は、Web開催を取り入れたことにより、例年よりも参加者が増加した。 <p>3)-(1)(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様に、全教員10名による授業研究を開催し、その都度のリフレクションを通じて講師間の調整や講義内容の精選・授業方法の工夫などを検討してきた。（資料12）この取り組みは、1年目の教員以外は実施しており、継続することで参加者も増加しリフレクションが有効に活用されるようになってきている。 研究活動は、第74回国立病院総合医学会のみではあるが、5題発表している。また、昨年の学校関係者評価で頂いた意見をもとに近畿グループ5校共通の看護教育倫理審査委員会の発足に向けた委員調整及び規程類の整備を行っている。次年度は活用が可能な状態である。（資料13）
---------	--

目標 4	<p>【4. コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教員間の業務調整によるタイムリーな学生支援体制 良好なコミュニケーションと相互協力を通して教育観の醸成 <p>評価 4</p> <ol style="list-style-type: none"> 教員の業務調整は、昨年の評価後に3学年統一様式の調整表を活用するようにし、休憩時間の確認、業務調整をしてきた。特に、対面授業の日の昼食時間には学生が「黙食」を遵守していることの確認指導を当番制にして継続した。また、時間割に応じた
---------	---

評価 4	<p>遅出業務者の調整を行うことにより、学生が在校中に相談できるよう時間配分し、勤務線表上でも学生の昼休み時間は全教員が勤務している時間帯に変更し、学生対応がスムーズになったと感じる。</p> <p>2) 教員間のコミュニケーションと相互協力の結果は、超過勤務時間の減少等で評価し、スムーズな調整ができていると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員会議を週に1回開催し、学年間の調整や行事準備を確認してきた。今年度は9月から教員1名の欠員（病気休暇→退職）が生じたが、授業応援やテスト監督応援を調整することにより、スムーズに対応できた。
---------	---

目標 5	<p>5. 国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的な学生募集活動 2) 国立病院機構への帰属意識の醸成 3) 国家試験合格率100%維持にむけた学習支援
評価 5	<p>1) 学生募集活動として、計画していたオープンキャンパスはコロナ感染症拡大防止対策を実施した中で、人数制限を設定して開催した。8月には高校生が進路を決定するにあたり、推薦指定校から「学校を見せてもらいたい」という要望が多くあり、開催した。例年好評である在校生の紹介は動画撮影で紹介した。（資料14）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学生への学校説明を目的にとした「学校新聞」を2回発行した。第1号は学校から入学生と一般の方々への発信としたが、第2号は学生からの提案により学生主体で作成した。 ・今年度はコロナ感染症の影響で進路説明会等も開催されなかったことから、昨年よりも23回多くホームページの原稿更新を行い、最新の情報提供に努めた。 ・学生の応募実績について。入学試験では、今年度で3回目になる公募推薦入試の試験問題を「国語・小論文・面接」だったものを「国語・英語」を1次試験、「小論文・面接」を2次試験に変更したことから応募者は減少した。（資料15） ・一般入学試験の応募者は昨年の135名から99名に減少した。一般入試では高等学校の教諭からの進路指導が学校選択に影響されることから、2月19日オンラインでの高校教諭対象公開授業（看護職への道、学校紹介）を実施した。今後も、高校への働きかけを継続し、受験生の確保を目指す。 2) 例年「学生フォーラム」と「近畿看護学会への参加」を帰属意識の醸成の機会としてきたが、今年度は両機会が中止となった。国立病院機構の看護を理解する機会としてのセーフティーネット看護の施設見学、近畿グループ主催合同Web就職説明会は実施でき、73回生（2年生）が3月11日に参加する。2月末日現在の73回生の

評価	NHOへの就職希望は70.9%である。70%以上がNHOを希望しており、帰属意識を持つことができていると考える。さらに、今後の就職活動により、変化すると予測している。
5	<ul style="list-style-type: none">・72回生（卒業生）のNHO就職予定者60名（73.8%）であり、前年度より減少しているが、70%以上を保っている。また、大阪府看護師養成所助成交付金の条件となる大阪府内就職率は、73.8%である。 <p>3) 国家試験に向けての模擬試験は種類を検討しながら計10回実施し、その都度の結果により強化メンバーを決定し個別指導を実施してきた。国家試験に追試験がないことから試験2週間前から自宅学習とし、外出しないで良い環境にした。その間、学校からは定期的に解剖生理学、病理学に関する学習用DVDを配信し、自由参加の国家試験対策を継続した。第110回看護師国家試験合格率は100%であり、全員合格を継続している。</p>

卒業生に期待する看護師像

資料 1

卒業生に期待する看護師像	内容
1. 生命に対する深い畏敬の念と人間愛を基盤にし、誠実で公平な倫理的判断力をもつた人間性が判断ができる人	<ul style="list-style-type: none"> ・生命への尊厳が保てる ・専門職としての規範を身につけ、倫理的・社会に広く流布される情報に惑わされることなく倫理性に物事に向き合える
2. 対象を身体的・精神的・社会的・靈的に統合された存在として幅広くとらえられる人	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を統合的に理解する能力をもつ
3. 人々の健康上の問題を解決するために、科学的思考に基づいて今すべき行動を判断し対応できる人	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠に基づいた看護実践ができる
4. 対象がより良い健康状態に向かえるように生活過程を整える援助ができる人	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の意思決定を支援する能力を身につける ・患者や家族の目線に立った看護実践ができる ・調整能力、マネジメント能力を持つことができる ・多職種の役割を理解し尊重できる
5. チーム医療を担う看護専門職者としての役割を果たすことができる人	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療を担う看護専門職者としての役割を果たすことができる
6. 自己の看護観を持ち、人間として成長できる姿勢を身につけている人	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職として生涯学習し続ける、主体的・積極的な行動ができる
7. 常に変動する社会情勢や医療の動向を敏感に察知する姿勢を持ち、広い災害医療など、広い視野で必要とされる看護を見いだすことができる人	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の動向に対し、自ら情報を収集 ・SNSや多くの情報を適切に活用できるための情報リテラシー能力をもつ
	<ul style="list-style-type: none"> ・涵養された生命観を持つ ・礼儀正しく、人間にに対する優しさと配慮がもてる ・問題を見極め、解決のために何か必要か思考できる ・患者や家族の目線に立った看護実践ができる ・調整能力、マネジメント能力を持つことができる ・専門職として生涯学習し続ける、主体的・積極的な行動ができる ・SNSや多くの情報を適切に活用できるための情報リテラシー能力をもつ
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性をもつ ・いじめやハラスメントに対する感性を有し、適切な行動がとれる ・問題を解決するために何か必要か思考できる ・看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、それとともに応用実践できる能力(安全・技術力)を持つ ・切れ目ない医療や援助を考えることができる ・協調性があり、リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる ・自己の看護を振り返り、さらに看護観を明確にさせることができ ・周囲に興味関心をもつことができる ・災害時に看護師に求められる役割を認識し、対応する能力を身につける
	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の価値観を認められる ・人権を尊重できる ・疑問や間違ったことは発信できる ・対象の理解においては、病気をしていないときの生活も含め、生活者として人を捉えられる ・状況判断をし行動できる能力をもつ(臨床判断力) ・多様な場、多様な背景を持ち生活する対象を捉え支援できる ・生活者として対象を捉えることができる ・医療に携わる多職種との連携を意識したコミュニケーションがとれる ・探究心をもち研究に取り組める ・看護を創造できる ・被災者の心理状態・社会的困難を考え、責任ある行動を考られる ・社会の変化に応じて必要な看護を考え行動できる

カリキュラム検討会議 内容一覧

資料2

ねらい:カリキュラム改正に向け、教育内容の精選ができるよう教員全体で意見の共有ができるための取り組みを検討する

業務改善に取り組み、効果的で効率の良い業務を目指す

構成員：副校长・教育主事2名・教員3名

	議題	内容
4月	1. 2019年学生によるカリキュラム評価の返答について 2. 現状を踏まえどんな教育内容を取り入れていく必要があるか 1) 前回の書記録の分析 2) IPEの導入ほか	1. 学生の声に対して、昨年度、返答も踏まえて検討 今年度は学校関係者評価でも指導を受けたように、評価に重点を置いていく カリキュラム評価をどう活かし、どう変化したのか評価していく。学年運営や 自治会への関わりに反映していく必要があり、教員全体の理解を深めていく 2. 現状を踏まえどんな教育内容を取り入れていく必要があるか 1) 時間数・進度・内容・教育方法・今後取り入れたい科目について意見交換実施 2) IPEの導入ほか（アドベンチャーホスピタルへの参加、多職種特別講演など）
5月	1. 現状を踏まえどのような教育内容を取り入れていく必要があるか 今後の進め方について	1) 前回検討分を伝達した結果について各学年の意見共有 2) 今後の取り組みとして考える事 ・教育理念・目的・目標の図式化 ・ディプロマポリシーとの関連性・他科目や領域との関連性を考える 課題用紙を用い各自担当科目について考え、次回までに学年間で意見交換を行う
6月	1. 各学年の検討課題内容について共有 ・各科目のディプロマポリシーとの関連性 ・他領域・科目との関連性 ・課題となること	1. 各学年の検討課題内容について共有 今回の分析を以下の視点を追加して再考する ・授業のねらい・なぜ、このディプロマポリシーが含まれるのか、キーワードの抽出と サマリーを作成する ・他領域・科目との関連性について、先行・後方にあたる科目との関連を図式化 ・課題となること：事前課題の内容、実技試験の評価（チェックリストかループリックか）、 講義・演習の内容・方法（使用教室も含む）、オンラインと自宅学習の分け方、 授業の時間・場所・方法 ・技術演習のある授業は、看護技術経験項目70項目の解説も含めて考える
7月	1. 各学年の検討課題内容について共有	1. 下記内容について、各学年意見交換内容を共有 ・各科目のディプロマポリシーとの関連性 ・他領域・科目との関連性 ・授業の方法・評価について
9月	1. カリキュラムマップ作成に向けての準備について	1. 教育目標の表現について検討 2. 教育内容・方法について検討 3. 今後の課題 現行の教育目標について、別表3との対比ワークシートに沿ってディスカッション し教育目標案とその理由について各学年で意見を抽出する 4. 10月上旬にカリキュラムマップ作成を実施予定
10月	1. 教育目標の検討 ・配布した3学年の意見交換内容をもとに、教育目標の絞り込み 2. 今後の予定について ・カリキュラムマップ作成にむけて	1. 教育目標の検討 1) 各学年で検討した内容について意見交換 2) 教育目標の絞り込み 3) 今後の予定について ・現行シラバスの改善・問題について抽出・カリキュラムマップ作成伝達講習の実施
11月	1. 卒業生に期待する看護師像の見直しについて	1. 各学年の検討内容について意見交換 2. 今後の課題 1) 今回話し合った卒業時に期待する看護師像について ・教育目標と連動させたものとして、今回の意見を基に整理を行う 2) 卒業時に期待する看護師像から、実習をどのような方法・内容としていくのか 検討が必要
12月	1. 教育目標・卒業生像・内容見直し分の整理 卒業生像から実習内容・方法の検討	1) シラバスについて、見直しが必要な科目と内容について意見交換実施 2) 教育目標の修正について意見交換実施 3) 今後の準備計画確認 ・教育目標シートの取りまとめと教員会議資料準備 ・形態機能学について案作成・多職種を入れる科目的案作成
1月	1. カリキュラム改正における強化するポイントの検討	1. 副学校長より、各教員の意見について説明 2. 課題 ・基礎看護について、今会議での考え方を基にシラバスを作成し科目内容を整理する 《担当》 ・看護基本技術：3年生　・生活援助技術：1年生・診療援助技術：2年生
2月	1. 基礎看護学シラバス検討について 2. 地域・在宅看護論、実習科目について	1. 卒業生に期待する看護師像について確認 2. 基礎看護学シラバス検討について各学年担当分の意見交換実施 3. 地域・在宅看護論、実習科目について各学年の意見交換実施

1. 改訂カリキュラム作成

- ・カリキュラム改正に向け、カリキュラム改正に係る研修に参加し各自が理解を深めるとともに、教員会議で伝達を行い全体での共有を行っている

- ・カリキュラム改正に向けた検討会での検討内容・課題を各学年で取り組み、具体的な教育内容や教授時期・時間数について、各教員が考えることが出来ている

令和2年度 全国国立病院附属看護学校副校长・教育主事協議会近畿支部 学校相互評価

学校名	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター附属看護学校		
日時	令和 3年 2月 1日 (月) 10:00~17:15		
評価担当者	京都医療センター附属京都看護助産学校 副学校長 京都医療センター附属京都看護助産学校 教育主事 大阪南医療センター附属大阪南看護学校 教育主事	京都医療センター附属京都看護助産学校 教員 舞鶴医療センター附属看護学校 教員	

【学校相互評価の総合評価】

評価項目	具体的内容
教育理念 目的目標	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な制約があったが、貴校の教育理念である「主体的・積極的な行動がとれる」よう授業方法の工夫や学生個々への技術練習の支援が行われている。1年生の入学時にワークシートを作成し教育理念・目的の浸透に努められているのは良い。また、自治会活動が活発に運営され、学生に理念が浸透していることがわかる。 卒業後の継続教育との関連については、母体施設主催の新人教育に教員が参画したこと、卒業までに身につけさせなければならないことが明確になり、3年生の卒前技術教育に活かされている。卒前技術教育の結果を分析されることを期待する。
教育課程 評価	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム改正を見据えて、カリキュラム検討委員会議にて計画的にカリキュラムの見直しに取り組まれていることは良い。一部の講義・実習の評価にループリック評価を取り入れ、課題が明確になってきているので、今後も教育の質向上に向けて取り組まれることを期待する。 今年度は休校に伴う学事の変更、オンライン授業導入など、状況に応じたシラバスの変更が行われている。シラバス変更後の授業内容の明確化、事前課題・事後課題の内容を確認できるよう、講義概要等に明記されるとよい。また、講義概要用紙に講義の実施者サインまたは印の欄がないため、様式を改善されるとよい。 臨地実習を学内実習に置き換えたものについては、学習の公平性確保のため、その内容と評価基準を検討されていたがファイル等に整理されているとさらに良い。 シラバス変更後の授業内容の明確化、事前課題・事後課題の内容については、講義概要に追加明記した。 講義概要用紙の講義の実施者サインまたは印の欄については、次年度から改善したものを使用するよう様式を善した。
学校組織	<ul style="list-style-type: none"> 学校組織の意思決定システム等については適切に運用されている。 各会議の活動内容や検討内容等の資料・議事録は、速やかにファイリングされていると良い。 感染拡大防止のため中止になった会議について、運営会議の議を経て決定する事項については書面決裁がわかる議事録の保管が必要である。 議事録は、回覧中であったため、戻り次第速やかにファイリングした。 中止になった会議について、運営会議の議事録は、書面決裁の内容を記したものを作成した。
学校生活 支援	<ul style="list-style-type: none"> 学生のカウンセリングはオンラインを導入し対応されており良い。 学生への経済的支援制度の周知はされているが、各種制度の支援活用状況について教員も把握することで、よりきめの細かい学生支援につながると思われる。
教員の研究 活動	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は感染拡大状況に合わせてのカリキュラム運営が迫られ、研究日の取得が難しかったと思われる。次年度は研究日を計画的に取得し、今年度の取り組みを発表されることを期待する。
社会への 貢献・公開 講座	<ul style="list-style-type: none"> 進路相談会や高校教員相談会へのZOOM参加の計画をされている。 例年取り組まれた公開講座の開催や同窓生による演習支援（模擬患者の活用）は、今年度は実施できなかったが、今後も工夫しながら取り組んでいただきたい。 2月19日ZOOMによる高校教員相談会を開催した
総 評	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス拡大防止のための感染予防対策の実施、遠隔授業の導入・臨地実習の制約等がある中でも、学校運営が適切に行われている。また、オンラインを活用したカウンセリングが行われ、学生の心理的サポートも行われている。 カリキュラム改正に向けてループリック評価の導入等新たな取り組みがなされ、教育の質向上に努力されていることがわかる。 教員が1名不足しているので、必要人員の確保は課題である。 自己評価の分析結果が未記入の項目については、検討内容・プロセスがわかるよう明記されることが望まれる。

令和2年度 自己点検・自己評価/学校相互評価結果

◎近畿グループ附属看護学校5校での学校相互評価を実施した。

評価は、他校の副校長1名、教育主事2名、教員2名による書類審査及び当校の教員へのヒヤリングと意見交換。

◎高い評価を得た教育活動 5点について

- ①2022年のカリキュラム改正に向け「改訂カリキュラム検討会議」を開催し、取り組みを開始している。
- ②新型コロナ感染症の影響に関しては、オンライン授業の導入および実習の日程・場所の変更によりほぼ計画通りカリキュラムを運営できている。
- ③卒業時の看護技術能力の習得に向けて、実習指導者と情報を共有し、また、新人看護師研修に教員が出席することで学校での教授内容に反映されている。
- ④教員全員が研究授業に取り組みリフレクションを通して教育効果を上げている。
- ⑤専門実践教育訓練給付制度の導入により、社会人入学生の経済面での支援体制の整備や受験生の確保に繋がっている。

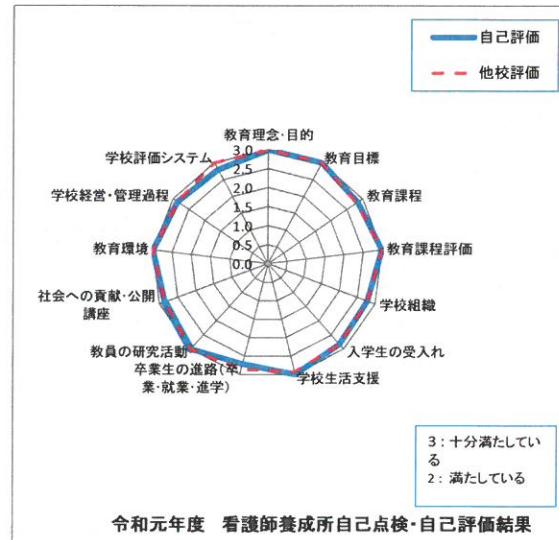
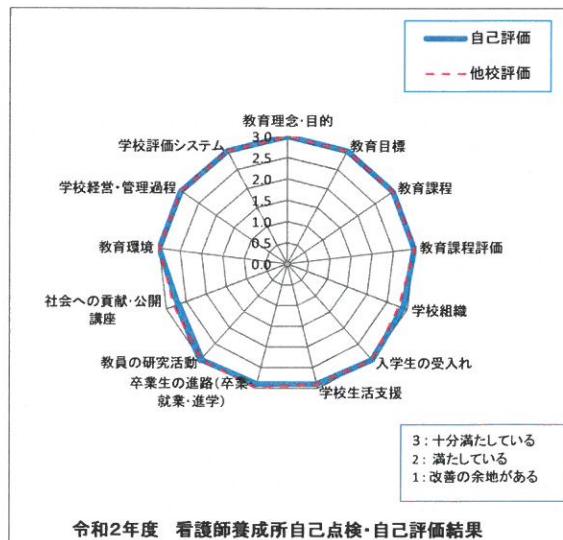
◎改善を要する項目 2点について

- ①老人保健施設での実習が困難になる可能性が今後も継続するため、新たな施設の確保、実習目標に応じた実習施設の検討が求められる。

- ②一般入学試験の応募者が減少した。高校の進路担当教諭や学校へ働きかけ応募者の確保に努める。

今後、評価結果をもとに維持・改善にむけた活動を行う。

カテゴリー	評価の概要	令和2年度		令和元年度	
		自己評価	近畿グループ附属看護学校相互評価	自己評価	近畿グループ附属看護学校相互評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているか。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているか。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のため工夫し、計画的に進められているのか。(26項目)	3.0	3.0	2.9	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適性であるか。(9項目)	2.9	2.8	2.9	2.8
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について。(5項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているか。(15項目)	2.9	2.9	3.0	3.0
VIII 卒業生の進路(卒業・就業・進学)	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているか。(7項目)	2.9	3.0	2.9	2.9
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について。(4項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
X 社会への貢献・公開講座(地域交流・国際交流)	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズを踏まえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制について。(7項目)	2.7	2.8	3.0	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について。(7項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて。(7項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について。(5項目)	3.0	3.0	3.0	3.0



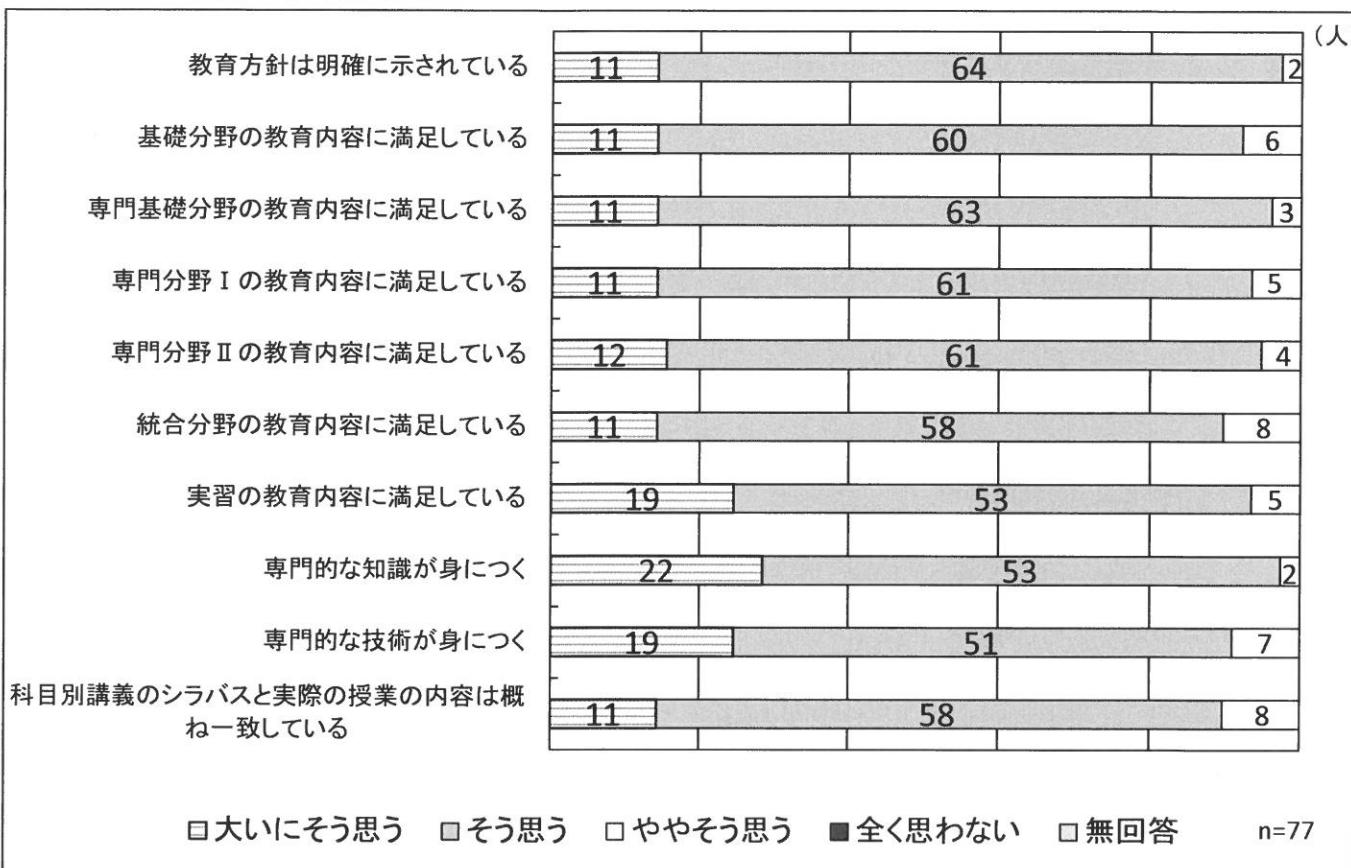
学生による卒業時のカリキュラムに関する満足度調査

資料4

アンケート回収率: 96% (80名中77名)

72回生 卒業時評価

カリキュラム評価: 教科目関連

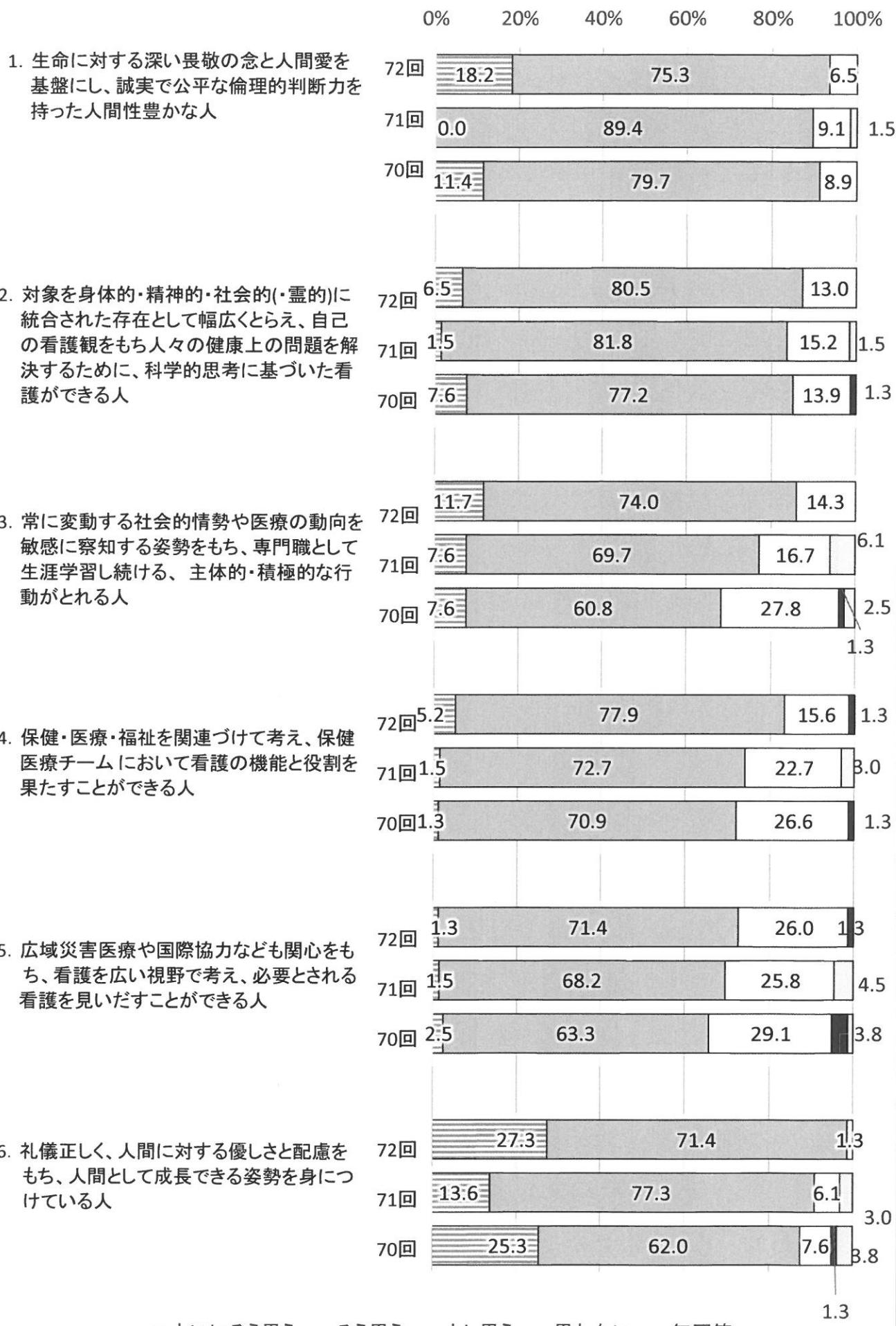


カリキュラム評価: 学習環境・支援・職員



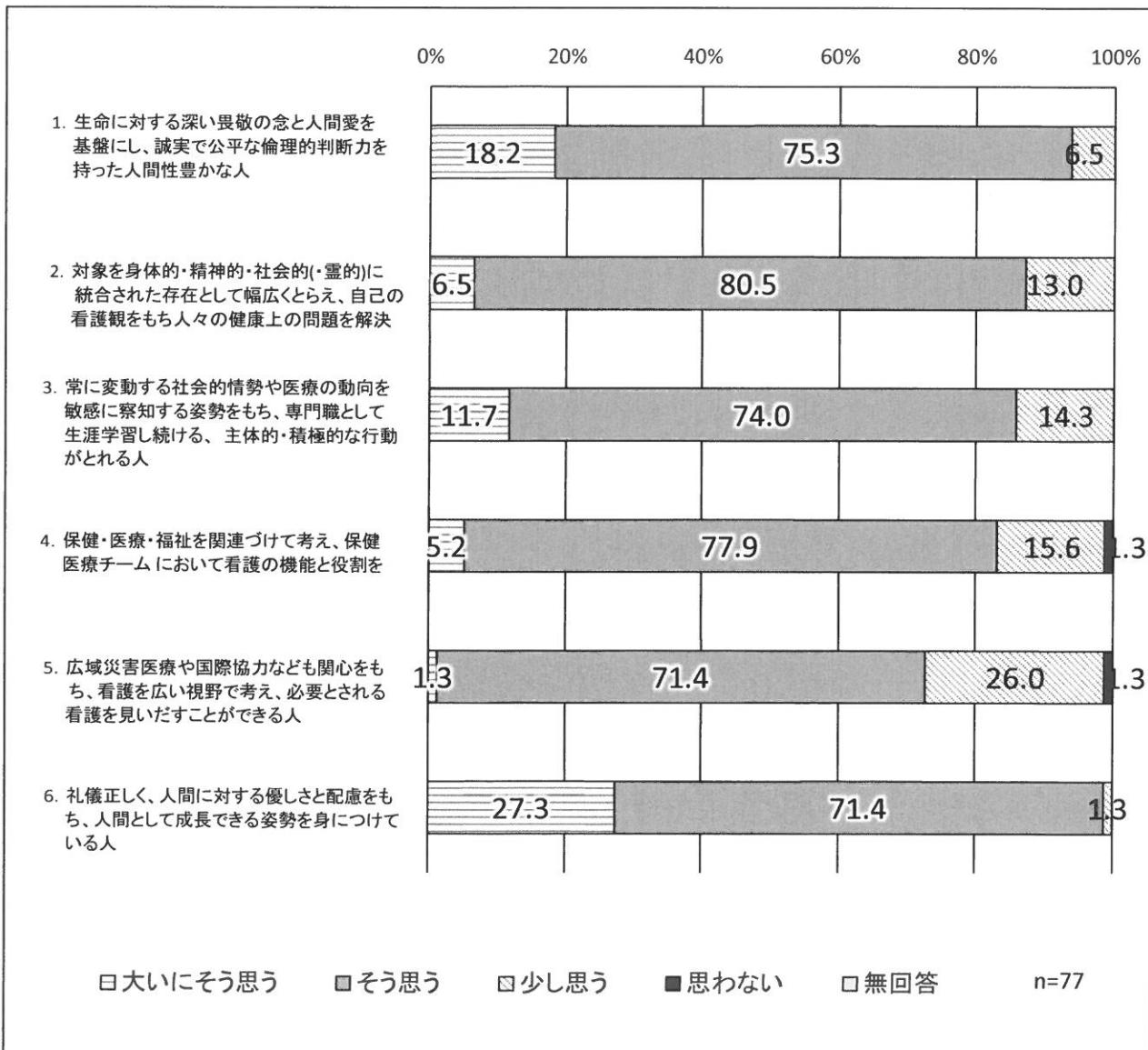
卒業生に期待する看護師像 卒業時自己評価 回生別調査結果

資料5



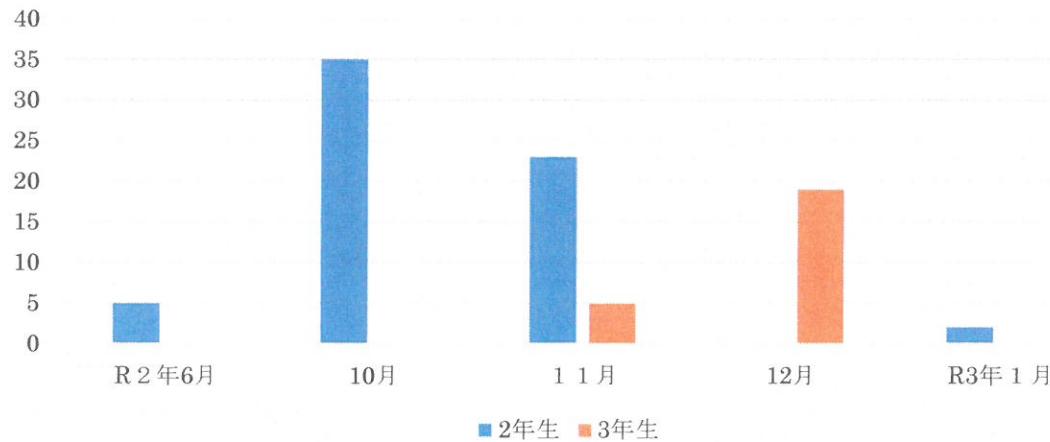
令和2年度 卒業生に期待する看護師像 卒業時自己評価 調査結果
回収率97.4% (78名中77名)

	大いに そう思う	そう思う	少し思う	思わない	無回答
1. 生命に対する深い畏敬の念と人間愛を基盤にし、誠実で公平な倫理的判断力を持った人間性豊かな人	14	58	5	0	0
2. 対象を身体的・精神的・社会的(・靈的)に統合された存在として幅広くとらえ、自己の看護観をもち人々の健康上の問題を解決するために、科学的思考に基づいた看護ができる人	5	62	10	0	0
3. 常に変動する社会的情勢や医療の動向を敏感に察知する姿勢をもち、専門職として生涯学習し続ける、主体的・積極的な行動がとれる人	9	57	11	0	0
4. 保健・医療・福祉を関連づけて考え、保健医療チームにおいて看護の機能と役割を果たすことができる人	4	60	12	1	0
5. 広域災害医療や国際協力なども関心をもち、看護を広い視野で考え、必要とされる看護を見いだすことができる人	1	55	20	1	0
6. 礼儀正しく、人間に対する優しさと配慮をもち、人間として成長できる姿勢を身に附けている人	21	55	1	0	0



シミュレーター使用状況

令和2年度
ハイブリットシミュレーター シナリオ時間外使用状況 (単位:人)



- 1) 31の事例があり、学年の実習や課題に応じて今年度は、5～6事例活用した
- 2) 演習以外での使用の時期として
 - ・2年生は、領域別臨地実習開始前の10月、11月が最も多い
 - ・3年生は、OSCEの試験前の使用となっていた
 - ・使用回数ももっと多い学生は、13回以上使用していた
- 3) 学生の使用目的として
 - 1：患者さんの症状の変化に対するイメージ
 - 2：観察の視点
 - 3：フィジカルアセスメントの技術
 - 4：患者への接し方

の順となっている

学生の思考力・アセスメント力を強化する授業展開

学生の到達度及び授業評価の検討

日常生活援助技術Ⅱ 清潔・衣生活「臥床患者の清拭・寝衣交換」技術試験の評価表の変更

総括

今年度ルーブリックを用いた評価表に変更し、援助のスムーズさを問う試験とした。評価観点を示したことにより、この技術に求められる技術内容が学生にも明確になった。ルーブリックを用いた評価で問うべき「思考」や「判断」は基礎看護技術の実技試験では限界があるが、これまでの試験のように「必須項目さえ出来ればよい」という考えではなく、「援助をスムーズに実施するための技術習得を目指す」という点では今回の評価表は効果的であったと考える。しかし、タイムオーバーが原因で各評価観点の中核となる技術が実施できずに不合格となる学生や、「安全性」の評価基準が満たしていないくとも他の評価観点の合計得点が60点以上となった場合は合格するなど、実施したことによる問題点も顕在化したため、今後の課題としたい。

第74回生 生活援助技術Ⅱ 清潔・衣生活「臥床患者の清拭・寝衣交換」技術試験 評価表

試験日：令和2年11月24日(火)

評価観点		評価基準	A(25点)	B(15点)	C(5点)	D(0点)	チェックポイント	得点
1	患者の状態把握	<input type="checkbox"/> ★清拭・更衣の方法を説明し同意を得ている <input type="checkbox"/> 清拭・更衣の際の労作による影響がないか、全身状態を観察している <input type="checkbox"/> 患者に排泄の希望がないか確認している <input type="checkbox"/> 患者とコミュニケーションを取りながら実施している。 <input type="checkbox"/> ★援助を通して、皮膚に発赤やびらんなどの異常がないか観察している（観察したことを終了時に報告する）	評価基準すべての項目がスムーズに実施できる	評価基準5項目について概ね実施できるかつ★印の2項目が確実に実施できる	評価基準★印の2項目はすべて実施できるが他の項目が不十分	評価基準★印の項目が実施できていない	実施前・中・後の観察説明と同意	
2	環境調整	<input type="checkbox"/> プライバシーを保護するため、カーテンまたはパーテーションを活用している <input type="checkbox"/> 必要物品をワゴンに準備している <input type="checkbox"/> ベッドの高さを看護師がケアしやすい高さに調節している <input type="checkbox"/> 実施中は常に患者を観察できるよう、作業効率を考えた物品の配置を行っている <input type="checkbox"/> ★実施後、ベッドの高さとベッド幅を元の位置に戻し、ナースコールを患者の手の届き位置に置いている <input type="checkbox"/> 使用済みのタオル類はワゴンの下段に置く。脱いだ寝衣について、患者に確認し、片づける	評価基準すべての項目がスムーズに実施できる	評価基準6項目について概ね実施できるかつ★印の2項目が確実に実施できる	評価基準★印の2項目はすべて実施できるが他の項目が不十分	評価基準★印の項目が実施できていない	環境調整 物品の不足 ワゴン内の物品配置 ベッドとワゴンの距離 援助者の立ち位置 後片づけ	
3	安全性	<input type="checkbox"/> ウォッシュクロスは、自分の肌にあてて温度を確認するとともに、患者に熱すぎないか、冷たすぎないか確認している <input type="checkbox"/> ★四肢を動かす際は、2関節保持を意識しながら広い支持面積で支え、不安定な状態になっていない <input type="checkbox"/> ★手関節、肘関節、肩関節は無理な回旋をさせていない <input type="checkbox"/> ベッドのストッパーの確認、転落防止のため、ベッド幅を使用している	評価基準すべての項目がスムーズに実施できる	評価基準4項目について概ね実施できるかつ★印の2項目が確実に実施できる	評価基準★印の2項目はすべて実施できるが他の項目が不十分	評価基準★印の項目が実施できていない	ベッドストッパーの確認 ベッド幅の適切な使用 お湯の温度（高温・低温） 関節の支持 無理のない関節可動	
4	安楽さ	<input type="checkbox"/> 保温や差荷への配慮のために、患者に掛け物を掛けて、不必要的露出を避けている <input type="checkbox"/> 無理のない姿勢でボディメカニクスを活用して実施している <input type="checkbox"/> 適度な圧力と速さで清拭し、拭き忘れがない <input type="checkbox"/> ★気化熱による皮膚の表面温度の低下を防ぐために、清拭後、乾いたタオルで湿気を拭き取っている <input type="checkbox"/> ウォッシュクロスは冷たさを感じさせないよう、タオルの端が患者の身体にふれないようにしている <input type="checkbox"/> ★寝衣のしわを伸ばしている <input type="checkbox"/> 18分以内で実施している	評価基準すべての項目がスムーズに実施できる	評価基準7項目について概ね実施できるかつ★印の2項目が確実に実施できる	評価基準★印の2項目はすべて実施できるが他の項目が不十分	評価基準★印の項目が実施できていない	タオルケットの使用方法 ウォッシュクロスの扱い 拭く弱さ 拭き残し 無理な体位（援助者）所要時間（18分以上）	

※評価は各項目A(25点)～D(0点)で評価し、合計得点が60点以上を合格とする。

点数()点/100点 合格 不合格
評価者: 印

時間(分 秒)

授業評価結果・分析

1. 分野別授業評価結果（院外講師・院内講師・教員） (評価4点満点での平均)

1) 院外講師評価

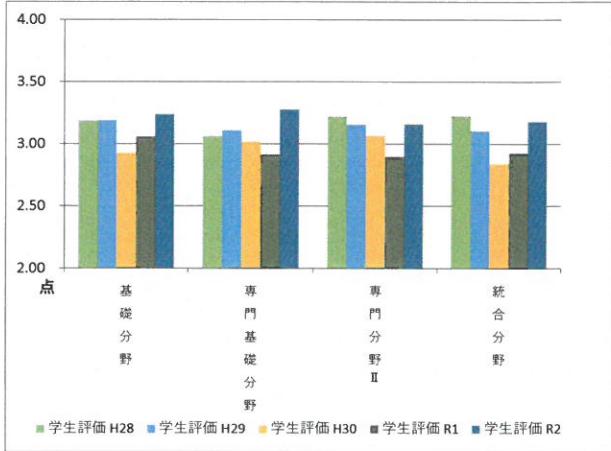


図1-①<院外講師の授業に対する学生評価>

H28年度 n=313 (1学年 82名、2学年 115名、3学年 116名)
H29年度 n=275 (1学年 78名、2学年 82名、3学年 115名)
H30年度 n=245 (1学年 83名、2学年 79名、3学年 83名)
R1年度 n=249 (1学年 87名、2学年 83名、3学年 79名)
R2年度 n=249 (1学年 86名、2学年 86名、3学年 81名)

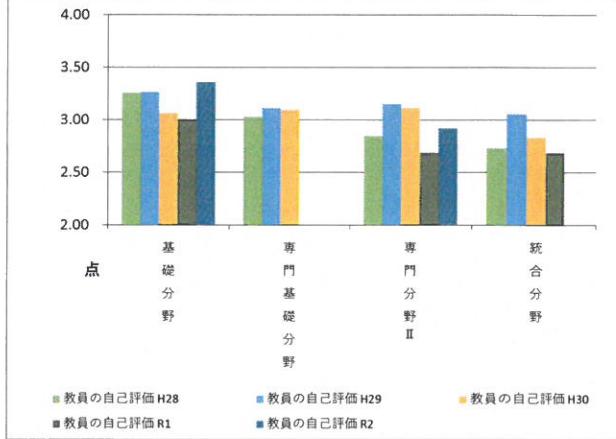


図1-②<院外講師の授業に対する講師自己評価>

2) 院内講師評価

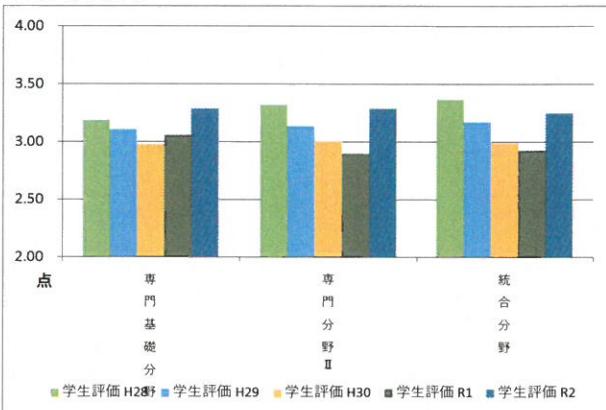


図2<院内講師の授業に対する学生評価>

*院内講師（医師）は自己評価データがないため、学生評価のみ

評価基準	
4点	大いにそう思う
3点	そう思う
2点	ややそう思う
1点	全く思わない

3) 教員評価

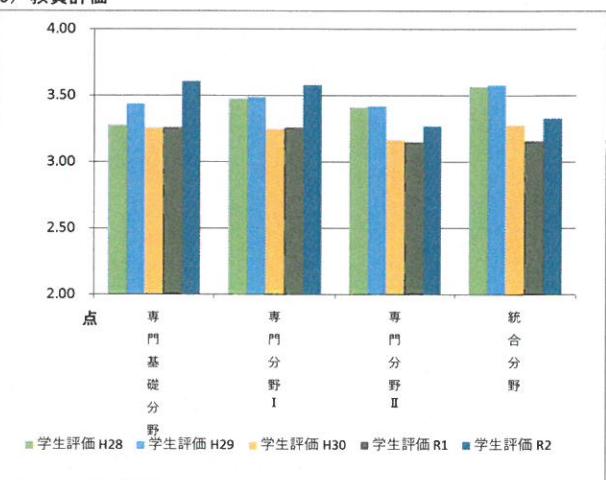


図3-①<教員の講義に対する学生評価>

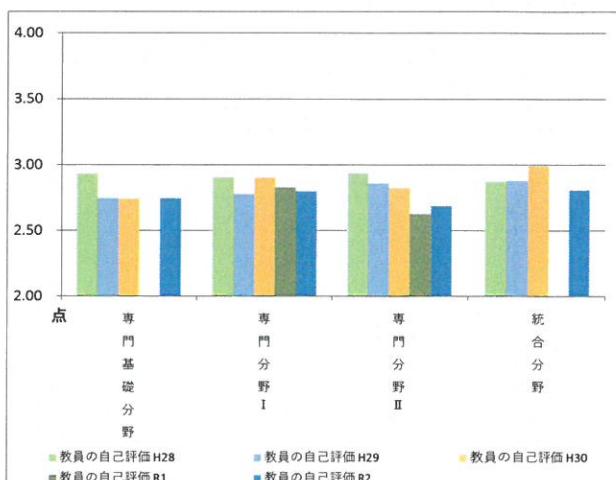


図3-②<講義に対する教員の自己評価>

コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け、講義形式を対面授業とオンライン授業を取り入れている。

オンライン授業による講義資料や講義方法の工夫が行われたことも学生の講義評価が上昇している誘因と考える。

4) 教育内容別評価 (4点満点の平均)

*R2の評価については令和3年2月26日現在

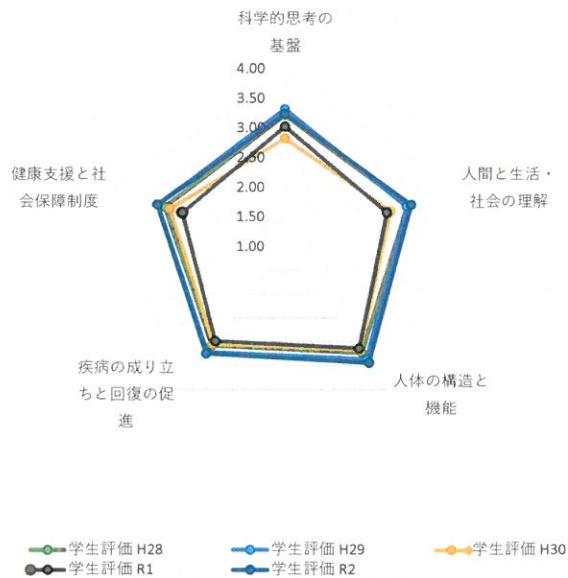


図4-①
<教員の講義に対する学生評価：基礎・専門基礎分野>

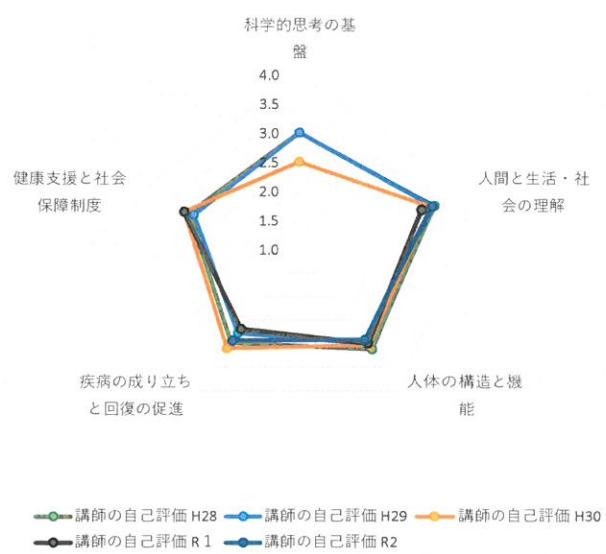


図4-②
<講義に対する教員の自己評価：基礎・専門基礎分野>

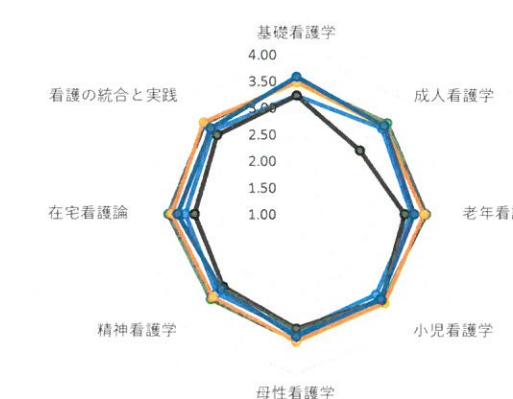


図4-③
<教員の講義に対する学生評価：専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野>

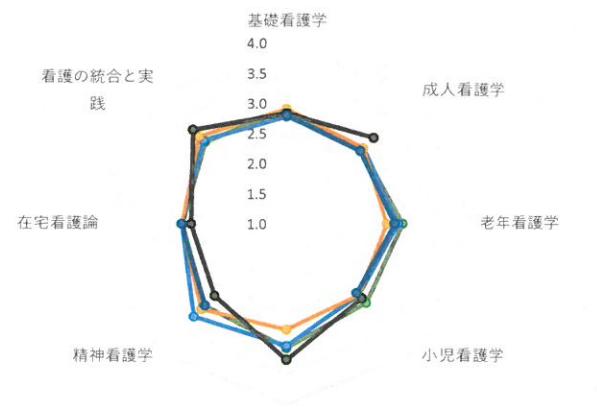


図4-④
<講義に対する教員の自己評価：専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野>

教育内容別評価

学生評価項目Ⅰ-2) 「授業に積極的に参加していた。」Ⅰ-3) 「授業に関連して、日々の学習内容や課題等復習を行うことができていた。」の2項目において3.0以上を付けており、学習への意欲がうかがえる。「疾患の成り立ちと回復促進」の評価が昨年度より大きく上昇している今年度、講義の開始時期が遅く、先行して教員の基礎看護学が進んでいたことで専門的内容への学習が進めやすかったと考えられる。また、教室で観るパワーポイントより、オンライン授業での資料は見やすく、学習環境的も整っていた事が評価を上昇させたと考える。専門分野Ⅱにおいては、基礎看護学が高くなっている中でもソーシャルディスタンスに配慮した演習や動画等を用いた練習の実施などが学生の満足につながったと考える。講師の評価が低い事については、オンライン授業や演習方法を今年度新たな方法での講義であり次年度に向け改善の必要性を見出し自己評価を低くしていると考える。

また、講師の授業評価が回収されていない講義もあり、確実に回収できるよう講師へ働きかけが必要である。

1. 目標 臨地と学校との連携を強化し、効果的な実習指導を実践する

2. 活動目標と活動内容

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
活動目標	1) ティーチングスケジュールや指導案を活用した実習指導を行うとともに自己の実習指導の評価ができる 2) 思考発話法を用いた実習指導を行い、学生の臨床判断能力を培う指導が行える 3) 学生のレディネス把握と学年に応じた看護技術習得のための指導方法を検討できる	1) 実習前演習の参加を通して、学生のレディネスが把握できる 2) 学生の特徴を理解し、指導方法を検討できる 3) 実習評価について理解を深め、指導内容・方法の選定ができる 4) 実習における態度指導についての検討ができる	1) 実習前演習の参加を通して、学生のレディネスが把握できる 2) 学生の特徴を理解し、指導方法を検討できる 3) 実習評価についての理解を深め、指導内容・方法の選定ができる 4) 実習における態度指導についての検討ができる
活動内容	1)について ・自己の実習指導に対する評価 ・実習指導案（週案の見直し） 2)について ・効果的なカンファレンス方法（思考発話）の検討（1回目はレジメ作成指導、2回目はロールプレイ） ・思考発話法を用いた場面指導の検討 ・気づきのトレーニング（視聴覚教材事例をもとに指導方法の検討） 3)について ・日常生活援助実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討 ・看護基本技術実習 I オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討	1)について ・日常生活援助実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討 ・看護基本技術実習 I オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討 ・成人回復期・老年慢性期実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討 2)について ・効果的なカンファレンス方法の検討 3)について ・ループリックを用いた評価 ・領域別実習における課題と指導方法（経験させる内容）の評価	1)について ・看護基本技術実習 I 実習前研修による学生とディスカッションおよび指導方法の検討 ・看護基本技術 II は実習前研修を録画し、視聴後代表学生と意見交換 ・日常生活援助実習前の学生の状況説明と指導方法の検討 ・成人回復期・老年慢性期実習実習前研修参加によるレディネス把握と指導方法の検討 ・2年次・3年次領域別実習については随時情報共有した 2)について ・3年次前半の実習評価・技術経験状況から統合実習の指導方法について検討 3) 統一した指導をおこなうための情報共有と形成的評価の事例検討 4) 態度指導の検討は「逆向き設計」論をもとに、卒業時の看護師像から評価を考察
講演会 開催 (参加人数)	テーマ： 臨地実習における評価について H30. 7. 21 13:00~16:00 (58名)	テーマ： 臨地実習におけるループリック評価作成の理論と実際 R1. 8. 31 13:00~16:30 (36名)	*新型コロナウイルス感染症のため 今年度の開催はなし

<実習指導者会について> R2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を取りながら、実習前研修を実施し、できるだけ学生の状況を把握して実習指導ができるように努めた。また平成 29 年度に作成したティーチングスケジュールの活用を再考し、当校の卒業生像や国家試験過去問題をもとに、学生の到達度を考える機会を設けた。会議の中で情報共有や検討をすることで、臨床と学校の実習指導における連携を強化し、効果的な実習指導ができたと考える。次年度は、今年度の活動で得た学びを継続できるように、引き続き、学生の指導方法や態度指導についての検討、カリキュラム改正に対応した実習体制の構築の検討を連携して取り組んで行きたいと考えている。

1. 目的

実習施設における実習指導者の任にある者（以下、実習指導者）または実習指導者を補佐する者が、実習の意義及び実習指導者としての役割を理解とともに、効果的な実習指導を行うために必要な知識・技術および態度を修得することを目的とする。

2. 目標

- 1) 科目としての実習の位置づけと意義を理解できる。
- 2) 看護教育における実習指導者としての役割を理解できる。
- 3) 看護師に必要な実践能力を育成するための効果的な実習指導について理解できる。
- 4) 実習指導者の教育的介入に必要な知識・技術および態度を修得することができる。

3. 研修対象：近畿グループ 20 施設 実習指導に携わる看護師及び助産師

4. 研修内容：I 看護学校の教育課程（講義）

II 学生の理解（講義）

III 実習指導者の役割（講義）

IV 各看護学実習の理解（講義）

V 評価の基礎知識（講義）

VI 実習指導方法（講義・グループワーク）

VII 実習指導者に求められる資質

5. 受講状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施日時	①平成30年6月14日(木) 10:00~17:00 ②平成30年6月21日(木) 13:00~17:00	①令和1年6月13日(木) 10:00~17:00 ②令和1年6月20日(木) 13:00~17:00	①Web 開催 7月27日(月)、7月28日(火) 13:00~17:00 ②対面開催 7月29日(水)、7月30日(木) 13:00~17:00 *受講者がいずれかを選択
受講人数	① 23名 ② 20名	① 22名 ② 18名	①19名 ②19名
内訳：院内	0名	6名	8名
：他施設	23名	16名	30名

<実習指導者研修について>

本研修には次期候補者や実習指導に興味・関心のある看護師が院内より参加している。院外実習施設や他施設からも、5~6施設から2~4名の参加希望がある。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web および対面開催で受講者がいずれかを選択できるようにし、講義中心の形式で実施した。受講後のアンケートでは、実習の位置づけや、実習指導者の役割の理解、学習者の理解につながったという意見があがっていた。学校と臨地が連携する必要性を考える機会となっており、学生要因だけでなく、実習を受け入れる施設要因も学生の成長に大きく影響していることを実感している。今後も、実習指導者として活躍する人材を育成する中心的施設として研修を継続していきたい。

令和2年度 教員の研究授業(実施状況)

講義日			リフレクション日	科目名	授業内容	授業方法	教員参加者数	リフレクション内容
9月9日	水	3限目	9月9日 15:00	生活援助技術 I	6時:体位保持の実際	演習	9名	「体位保持の実施が出来る」という目標で、安楽さを自分たちが試している体験が主となっているため、声掛けを含めた援助の実施が十分できていなかった。事前学習で抑える等出来ると良い。 1つの体位だけでも行ってみてポイントをおさえるとわかりやすいように感じた。 事前学習のシートをもっと活用できると良かった 教材観に骨・筋の学習が含まれていることが必要。
9月16日	水	4限目	9月16日 16:30	老年援助論演習	2時:手術を受ける高齢者の看護	講義	5名	DVDを教材として使用しているが、その後DVDの内容についての説明や質問をしていない。所見データなど見えにくいものは紙面で渡すなどした方が良い。成人期と老年期での手術療法の違いを考えさせ、世人期の手術療法とつなげていくことも必要。
9月28日	月	1限目	9月28日 15:00	母性援助論 I	13時:女性のライフサイクル 各期における援助	オンライン	6名	・事例検討でグループワークをしているときの各グループの把握が難しかった。 ・全体共有でどのような意見ができるとよいのか評価の視点をあらかじめもっておくといい。 ・ブレイクアウトセッションを用いてグループワークの運営について事前に確認をしておくなど準備が必要。 ・社会資源について事前に調べることが出来る内容や若年妊娠のパートナーのことなど深められるよりよかったです。
10月6日	火	3限目 4限目	10月6日 16:30	生活援助技術 II	4時:安全安楽な清潔 (身体各部の拭き方)	演習	10名	「拭き方」を習得する上では、モデル人形の使用は有効。しかし、プライバシーへの配慮や対象への声掛けは不十分となる。学生同士での清拭ブースとモデル人形への清拭ブース各自で何を押さえたいのかを明確にし、応援教員と調整する。指導目標の「観察できる」は演習では難しい。「観察の必要性がわかる」に留める。
10月7日	水	1限目 2限目	10/7 午後	看護総合技術演習	2時:観察と確認	演習	8名	個々の力をグループで発揮しながら、対象の状況を判断し、状況に応じた実践の展開ができるよう工夫していく必要がある。患者役の学生の事例の感じ方や、看護者役の学生の実践にも、これまで培った看護実践を活かすことができるよう事前課題を早期に提示していく。
10月27日	火	3限目 4限目	10月28日 16:00	診療援助技術 II	点滴静脈内注射の演習 (学生の苦手な技術をどのように習得させるか)	演習	7名	言葉数が多いので、もう少し精選してもよい、学習ポイントの張り出し、カメラの設置などはよいが、画像のぶれがよくない。グループにわかったとき自分の役割がわからていない学生がいた。コロナ対策で距離をとったことはよいが、教員の動線が遠いので、教員が中央にきて学生が見渡せると指導がしやすいのではないか。
11月25日	水	1限目 2限目	11月25日 16:00	看護研究	看護計画発表・クリティーク	演習	5名	クリティークを学生が実施するという経験は良かった。しかし1分の時間制限は時間が足りなかつたように思う。
12月15日	火	4限目	12/28 15:45	小児看護学概論	2時:小児の成長・発達の特徴	講義	5名	指標の計算問題はよかったが、時間が掛かりすぎている。学生が見たことがある小児のイメージを想起させるとよかったです。理論を活用してどのように看護に活かすのかを考えていく必要がある。成長発達のイメージが付くように小児モデルを活用するとよい。
12月18日	金	1限目						
12月21日	月	3限目	12/24 13:00	診療援助技術 II	14時:採血の実施 (真空管採血)	演習	7名	デモンストレーションでは学生に見せたい部分が見えていない、カメラの動きと合わせ見えずらい時があった。学生が血管の走行がわかるようにライトの活用をされるといい。本時で学ぶ内容を強調すると良かった。注射器を用いた方法と採血ホルダーを用いた方法の共通点と違いがよくわかるようメリハリをつけるといい。 会場は広く使えるように配置されるとよい。
12月24日	金	3限目						
12月23日	水	2限目	12/24 9:00	小児主要症状別 援助論	14時:在宅療養を受ける 小児と家族の看護	講義	6名	視聴覚教材は紹介だけでなく実際に活用してみる。スライドの文字数が多すぎるため、学生に伝わりやすいよう修正する。講義内容ごとに区切っているため、しっかり繋げて学べるよう導入が必要。個人ワーク後の意見を活用する際に、スライドに用意した模範解答のみ使用せず、板書も活用し、学生の意見でまとめを行なう方が理解に繋がる。

教員の研究業績（令和2年度）

研究業績	テーマ	学会名	場所	時期
	看護学生が病床環境に対する気づきを促す取り組み～実習指導者参加によるローププレイを実施して～	第74回国立病院総合医学会	新潟Web この花看護研究会	10～11月 3月
	学生の主体的な学びにつなげる学習支援～ハイブリッドシミュレーターを活用して～	第74回国立病院総合医学会	新潟Web この花看護研究会	10～11月 3月
	実習後のシミュレーション学習による学生の学び	第74回国立病院総合医学会	新潟Web この花看護研究会	10～11月 3月
	卒業前の学生が後輩に語る学びの効果～異学年交流による統合実習の学びの共有～	第74回国立病院総合医学会	新潟Web	10月～11月
	看護学生が求める主体的に学ぶ力を育成する教授方法の検討	第74回国立病院総合医学会	新潟Web	10月～11月

投稿	テーマ	雑誌名
	シミュレーションを活用した卒業前医療安全研修の効果 - 研修過程評価スケールによる分類 -	医療の広場 , 21-2

<意見>

今年度は、新型コロナ感染症の影響により学会の開催が減ったが、Webでの投稿にて発表することが出来た。次年度に向けての研究活動が充分でないため、早急に研究計画書を作成し、学会発表が出来るよう研究日を年間計画で決め、取り組む必要がある。また、日頃より、研究を意識した教育活動や意見交換も求められる。

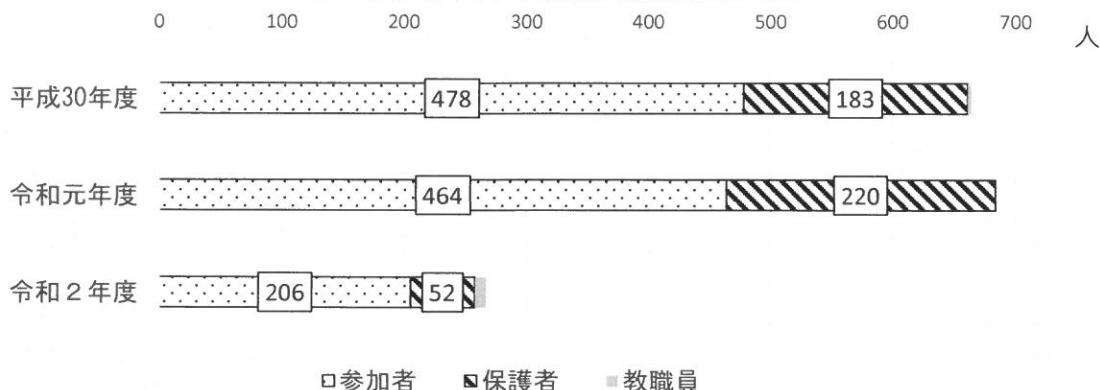
(1) オープンキャンパス・公開授業の実施回数

資料 1 4

実施回数	
平成30年度	6回（公開授業2回）
令和元年度	6回（公開授業2回）
令和2年度	7回（公開授業1回：高校教諭対象）

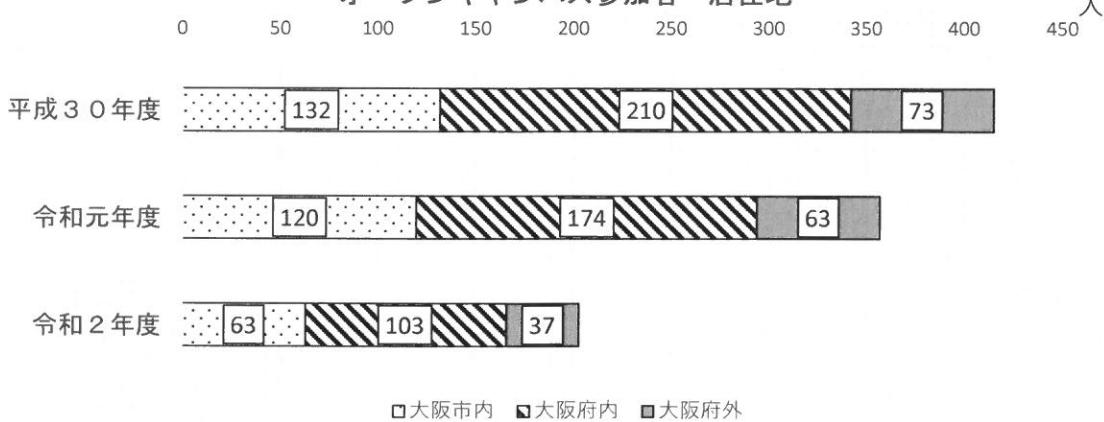
(2) オープンキャンパス参加者推移

オープンキャンパス参加人数推移H30～R2



(3) オープンキャンパス参加者の居住地

オープンキャンパス参加者 居住地



【実施状況】

- ・コロナ感染防止対策として、学生ボランティア参加を第2回以外はなくし学生からのメッセージ動画を紹介した。また、参加人数の制限・保護者の参加を制限した。
- ・少人数グループで、教員による説明を実施し会話を控えるよう、懇談会についても質問用紙を記載してもらい解答するように対応を行った。今までの質問を「Q&A」として配布することで、理解できるよう働きかけた。
- ・実習室や図書室に、授業・学習状況がわかるよう展示を工夫し、見学の機会を設け開催した。

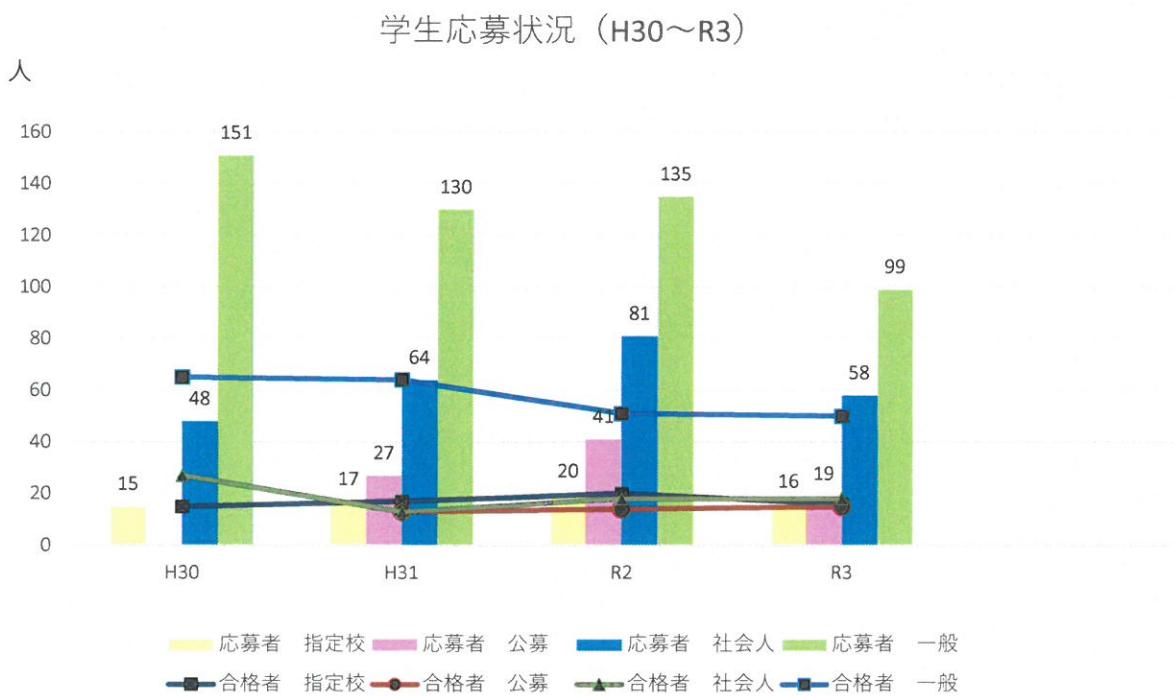
【参加者の感想】

- ・ホームページでは知ることができなかったことが知ることができてよかったです
- ・看護学校の雰囲気がよくわかりいい経験になりました。
- ・新型コロナウイルスが流行し、他の学校のオープンキャンパスが中止されている中、説明会や見学できるのはありがたいです。
- ・懇談会でゆっくりお話しの機会をいただけてよかったです。
- ・在校生のメッセージ、学校見学を通してどのような学生生活を送っているのかしたことは貴重な経験になりました。また、貴校が目指す看護師像を知りより具体的な目標を掲げることができました。

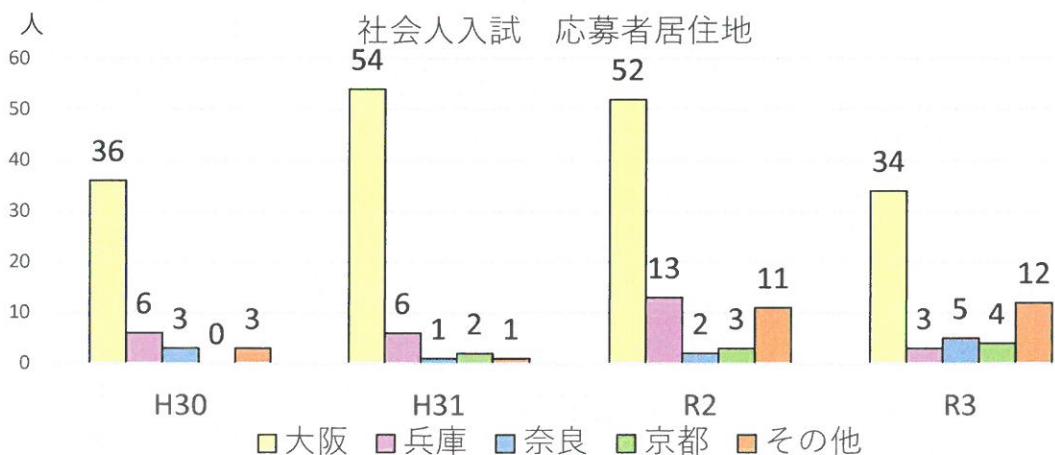
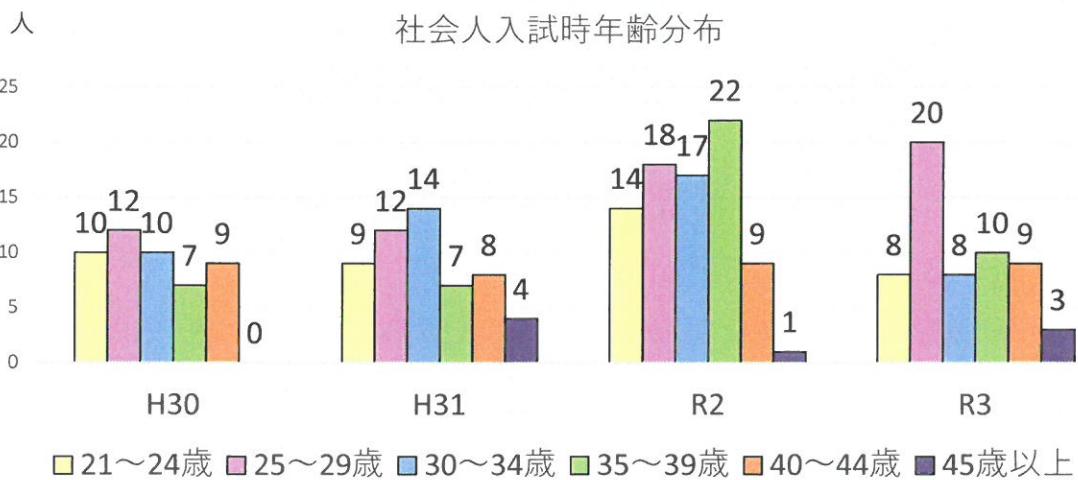
【分析結果】

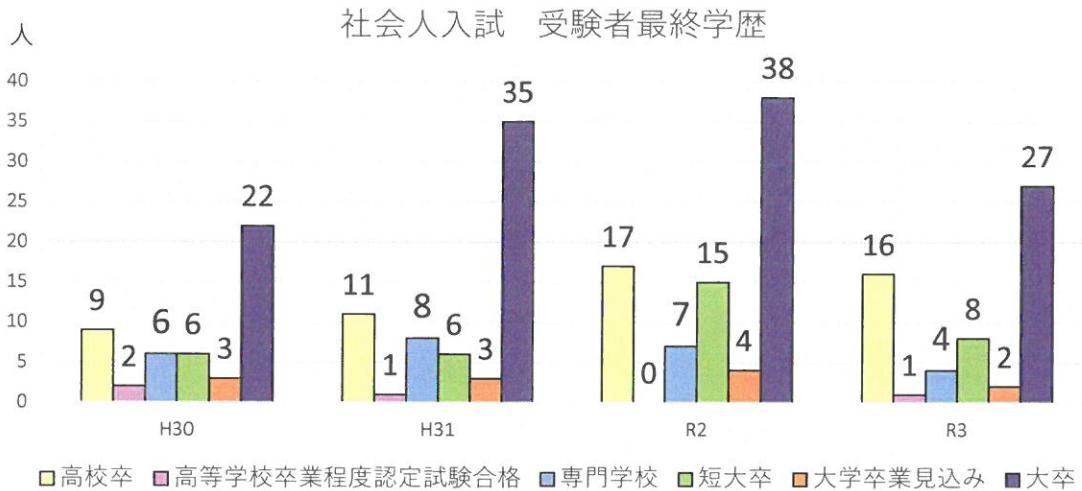
- ・効果的な学生募集を行うため、OCの実施を年6回と高校教諭対象に公開授業1回実施。
コロナウイルス感染防止対策のため、参加人数や保護者の参加制限、内容も例年とは変更し実施した。
- ・OCに参加している学生は、大阪市内、大阪府内が大半を占めている。
その為、近隣の高校への学校募集活動やHPを活用し学生募集を実施している。
- OCは参加人数制限となったため、高校教諭対象に公開授業をWEB開催。学生による学校案内動画を作成し学校生活の紹介を行うといった募集活動を追加開催した。

(1) 学生募集状況（受験応募者・合格者の推移）

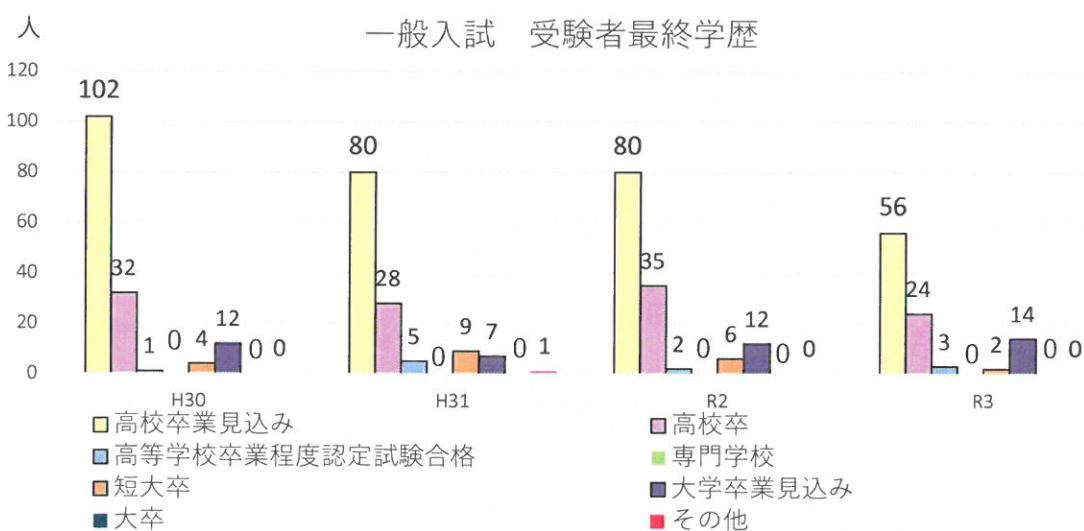
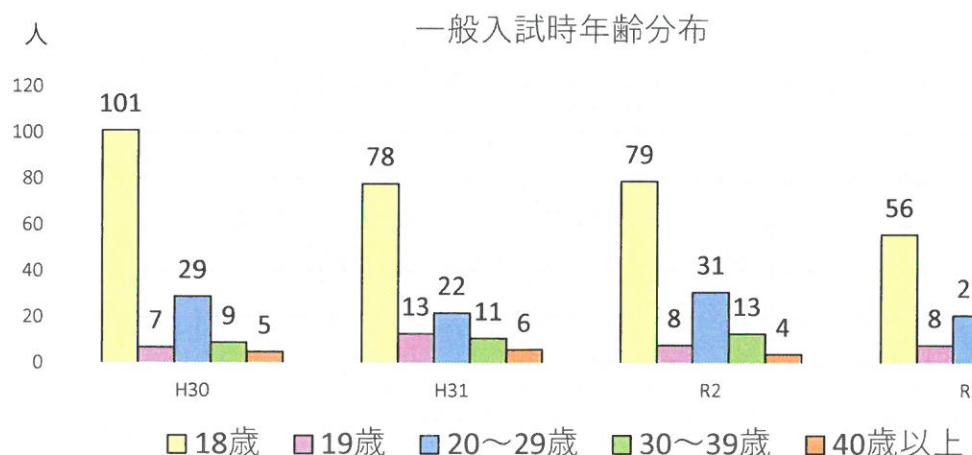


(2) 受験別応募状況　社会人入試





(3) 受験別応募状況 一般入試



【分析結果】

- ・学生応募状況の推移より、推薦・社会人・一般入試とともに応募者数は昨年度に比べ減少している。
今年度で3回目となる公募推薦入試については、試験問題を変更したことから応募者は減少した。
- ・社会人入試は、20歳代、30歳代が多く、大卒見込、大卒者の占める割合が高い。
一般入試は、高校卒業見込みの学生の割合が高い傾向にある。看護師の育成に対する貢献につながっていると考える。

令和2年度 広報活動状況

I. 学校新聞発行

新型コロナウィルス感染症のため、入学式や保護者懇談会が例年通り出来ない中、新入生に学校の歴史について知ってもらいたいという願いから、初めて、学校新聞を発行した。夏号（No1）と冬号（No2）を発行した。冬号は学生の広報委員が全て企画・編集した。

	内 容 (テーマ)	企画・作成担当	配布先
夏号（No1）	学校の歴史	教員 業者	全学生（保護者） オープンキャンパス参加者 母体施設
冬号（No2）	学校生活 ～With コロナ新しい生活様式～	学生（広報委員）	全学生（保護者） 進路相談会参加者 母体施設

II. 院内広報誌（法円坂だより）への投稿

稿依頼は2件であったが、依頼以外に追加投稿した

依頼数：2件 投稿数：6件+学校新聞（夏・冬号）

III. 院内飾りつけ 母体施設外来掲示板への飾りつけ（9月） クリスマスカードの掲示（12月）

IV. 動画配信

1. 高校教諭対象進路説明会→学生が学校の紹介を動画撮影
2. オープンキャンパス→学生による学校生活の紹介動画作成（在校生へのインタビュー）
3. 大阪府看護協会へ学校紹介応募→現在作成中（3月に応募）

V. ホームページの掲載

今年度掲載記事数： 36件 （昨年度 11件）

	全体	1年生	2年生	3年生
内 容 (タイトル)	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験全員合格 ・卒業生の現在 ・ありがとう！学生からの寄贈エプロン ・DVDで自己学習ができます ・オープンキャンパスを開催しました ・教員も教育実践力向上を目指しています ・院内宿舎の案内 ・医療者と患者さんに感謝と応援する気持ちを伝えたい ・国家試験合格率（過去8年分） ・第109回国家試験結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・第74回生の新入生を迎えました ・本格的に講義・演習が始まりました ・入学して初めて消防訓練をしました ・看護基本技術Ⅰの実習を終えて ・コミュニケーション研修を終えて ・第74回生戴帽式を終えて ・看護基本実習Ⅱを終えて ・特別講演を受けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校で募金活動実施中 ・日常生活援助実習を終えて ・ご自宅での入浴方法を学びました ・院内の飾りつけをしました ・学校交流会を終えて ・学校長先生ありがとうございます ～思いをつなぐポトス～ ・2年生領域別実習前研修での学び ・セーフティネット研修を終えて ・災害訓練を終えて ・2、3年生合同研修会 ・ケーススタディ発表を終えて ・実習を終えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実習を終えて ・実習まとめ会を終えて ・国家試験を終えて ・卒業記念品 ・卒業前活動 ・卒業証書授与式を終えて
計	10件	8件	12件	6件